

## 大学生における倍速再生聴取と等速再生聴取の理解度に関する研究

— 心の理論課題を用いて —

C03072 中村彩伽

**【研究史】** 近年流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、家で過ごす時間が多くなったことで、様々な動画アプリやサブスクリプションの需要が急増し、動画や映画などを見る時間と機会が増加した。そうした中、ドラマやニュース、映画などを見る際に、「多くの作品を見たい」、「より多くの情報を得たい」、「時間を節約したい」などという時間の有効活用を考えるタイムパフォーマンス（時間的効果）の考えから、動画の再生速度を速くして視聴する“倍速視聴”が広がっている。大柴・武藤（2022）の研究で学習用の動画プレイヤーを使用し、倍速再生での宣言的知識を学ぶ課題の場合、1.0倍速より1.5倍速で視聴した方が学習効果が高められるという結果が明らかとなっている。

**【目的】** 本研究では倍速再生に着目し、「心の理論課題」のアイスクリーム課題（林, 2001）を用いて単なる知識記憶ではなく他者の視点取得が必要な複雑な知識を理解、予測、説明などを行う能力についての倍速再生と共感性の差異、関連について検討する。

倍速再生で聴取するより等速再生で聴取した方が、内容が理解されやすく正答率が高いと考えられる。また、他者への共感性が高い人ほど、その人の気持ちに寄り添えるため等速再生の正答率は高くなるのではないかと考える。以上のことを踏まえ、本研究では以下の仮説を立て、二次的信念課題の倍速再生と等速再生での理解度と共感性の差異、関連について検討する。仮説1) 倍速再生で聴取した心の理論課題の理解度は、等速再生の朗読に比して低下する。仮説2) 倍速再生で聴取した心の理論課題の理解度は、共感性の高い者の方が高い。

**【方法】** 調査対象者：大学生19歳～22歳（男性1名、女性12名、平均年齢21.2歳）を調査対象者とした。  
調査時期：2023年11月中旬頃。調査内容：調査は大学内の空き教室で約20分の質問紙調査を行った。質問紙は倍速再生の頻度、理由の他にアイスクリーム課題の内容についての質問、共感的感情を調べるため鈴木、木野（2008）の「多次元共感性尺度（MES）の作成—自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて—」を使用し24項目、性別、学年、年齢、学科の4項目を行った。

**【結果】** ①理由説明率と再生速度×聴取回数の関係：理由説明意率に及ぼす再生速度と聴取回数の2要因の分散

分析を行ったところ、聴取回数の主効果が有意であった ( $F(1,20)=5.71, p=0.03$ )。また、再生速度と聴取回数  
の交互作用効果も有意であった ( $F(1,20)=22.86, p=0.0001$ )。

② 購買先正答率と再生速度×聴取回数の関係：購買先正答率に及ぼす再生速度・聴取回数の効果の2要因分散  
分析を行ったところ再生速度の主効果が有意であった( $F(1,20)=5.00, p=0.0369$ )。また、聴取回数の主効果も  
有意であった( $F(1,20)=5.00, p=0.0369$ )。さらに、再生速度と聴取回数の交互作用効果も有意であった  
( $F(1,20)=5.00, p=0.0369$ )。

③ 理由説明率と「他者指向的反応」×「自己指向的反応」の関係：移動情報正答率に及ぼす再生速度・聴取回  
数の効果の2要因分散分析を行ったところ再生速度の主効果が有意であった。また、聴取回数の主効果も有意  
であった( $F(1,20)=5.00, p=0.0369$ )。さらに、再生速度と聴取回数の交互作用効果も有意であった( $F(1,20)=$   
 $5.00, p=0.0369$ )。

④ 理由説明率と「他者指向的反応」×「自己指向的反応」の関係：理由説明率について重回帰分析を行った結  
果、他者指向的反応、自己指向的反応に有意な偏回帰が見られ、決定係数は0.503であった。

**[考察]** 本研究の目的は、「心の理論」となる二次的信念課題での倍速再生と等速再生の理解度と共感性の差  
異、関連について検討することであった。仮説1) 倍速再生で聴取した心の理論課題の理解度は、等速再生の朗  
読に比して低下する。仮説2) 倍速再生で聴取した心の理論課題の理解度は、共感性の高い者の方が高い。  
仮説1) について、二次的信念課題は倍速再生で聴くことで入って来る情報が短時間で大量に得られるため、情  
報の処理が追い付かず、得られる情報量は限られ、理解度が等速再生と比較し低くなったと考えられる。  
仮説2) について、共感性は社会生活において人と関わる上で重要な役割を担う(溝川・子安, 2015)。そして  
他者の気持ちや考えに寄り添うことができる共感性が高い人は、物語の登場人物の心情を読み取ることができ、  
理由説明率が高くなったのだと考えられる。

**[引用文献]** 大柴雅基・武藤剛(2022). 動画教材の再生方法の違いによる学習効果の検討. 第84回全国大会講演論文集. 2022 巻 1  
号 p.615-616/林創(2001). 「心の理論」の二次的信念に関わる再帰的な心的状態の理解とその機能. 京都大学院教育学研究科  
紀要, 47: 330-342/鈴木有美・木野和代(2008). 多次元共感性尺度(MES)の作成-自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて-.  
教育心理学研究 56巻4号 p.487-497